

充、柳澤壽昭、和田明範が昇殿 参拜のみに参加しました。

○令和8年度陸修偕行社慰霊祭

4月17日、靖國神社において、陸修偕行社慰霊祭が催行されました。柴田晃次、正本禎亮、和田明範が参加しました。

○会員の活動状況

＊振武台陸上防衛懇話会 振武台記念館等に関する陸上自衛隊朝霞駐屯地との連絡業務の処理、戦没者及び自衛隊殉職者等の慰霊顕彰、並びに自衛隊に対する必要な協力を行うとともに会員相互の親睦を図ることを目的とする会。振武台・予科士官学校入校の57期から61期生の組織を引き継ぎ、柳澤壽昭が特別相談役に就任しています。3月28日、東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令はじめ総監部幕僚副長・部長・官の皆様にご隣席いただき、振武台合 同観桜会を開催。陸士61期生3名、家族会員4名を含み総勢40名の宴席となりました。

＊偕行合唱団 前述の振武台合同観桜会に招聘され、和田明範団長以下、今野茂雄、神保明生、正本禎亮のほか、69会以外の団員5名で「ふるさと」「愛国行進曲」「東部方面隊歌」を披露しました。会後半では、和田明範指揮の軍歌演習で盛り上がりました。

2月11日、尾崎音楽工房主催の「第22回いざ歌わん哉」が、千川・スタジオ信号空館で、開催されました。今野茂雄、正

本禎亮、和田明範が参加、この日に因んだ「紀元節」「紀元二千六百年」を皮切りに、声を限りに軍歌を歌っていました。柳澤壽昭会長も視察に訪れました。

＊特定非営利活動法人「孫子経営塾」

講演会等を通じて人創りに貢献するという活動目的で、前原清隆君が塾長として運営しています。主な活動は、月一回東京都江戸川区タワールホール船堀の会議室で開催している講演会です。多彩な講師を招聘し、20〜30名の聴講者を集めています。

5月9日上野恩賜公園にて、「上野戦争の戦跡を訪ねる」現地研修を開催。研修者は12名。

＊一般社団法人「無線従事者養成センター」「航空無線通信士」の資格取得者講習及び資格試験を実施する機関。森充君が教官に従事しており、1月に2週間他の教官3名と資格取得のため全国から参集された海上自衛官50名を厚木基地内で教育を担当。さすが自衛官、受講態度も非常に熱心で、合格率約35%の国家試験に全員合格したとのことです。

＊同期生県隊友会長就任

末包昭彦君が、4月1日、香川県隊友会長に就任しました。ご活躍を祈念いたします。

○同期生訃報

ご逝去を悼み謹んでご冥福を祈ります
・武田能行様（令和7年9月20日）

・内田政三様（令和7年11月11日）
・有賀幸夫様（令和7年11月29日）



青森県偕行会 桜花満開の花見

会長 稲村孝司 陸自75

青森県偕行会は、会長が町会長を務める安原町会児童公園で恒例の花見を行った。昨年までは、弘前市に管理が移転された旧弘前偕行社庭園・遑止園で行っていた。しかしながら、弘前市教育委員会文化財課への「国の重要文化財で、杭を打って紅白幕を張って花見」を行うことの手続きが、極めて困難と悟り諦めざるを得なかった。

そこで考えられたのが会長宅から約50mに位置する児童公園である。同公園は、東西約80m、南北約40mの広さで、樹齢40年を超える桜の木が15本植えられている。花見の場所としては、準備の容易性と実施の快適さから抜群の場所である。いよいよ花見である。4月中旬に入り

弘前公園の桜が史上二番目の早さで開花し、16日には満開を迎えた。児童公園の桜も同じ状況で19日の日曜日に開催する

こととした。前日18日は、長野で震度5の地震が相次ぎ、生憎の降雨となったものの、幸いなことに当日は快晴となり気温18度で絶好の花見日和となった。8時から青森駐屯地から駆け付けてくれた息子と紅白幕を張り、バスケット場のダスト舗装の上にブルーシート、ござを敷き会場を準備した。特に紅白幕は公園設置のベンチにポールを立て、これまでで一番良く張れた。9時までには準備が完了し青森市から列車で参加する敦賀会員を弘前駅に迎える事ができた。

定刻の11時までに参加者10人が揃い、先ず「青森県偕行会」の横幕と「会旗」をバックに集合写真撮った。花見の宴は、三上会員差し入れのタラの芽紹介と乾杯の発声で始まった。満開の染井吉野の桜花は開始前にゴザの上に花びらを散らせ、開始後には少しの風で花吹雪となりコップには花びらが舞い降りた。飲み物は主にビールと工藤武重防衛協会長からの青森市の銘酒「田酒」と、隊友会中弘支部長でもある上月会員からの弘前市の銘酒「花吹雪」と準備した地酒、花見折詰は近くのイオンからのものだった。宴の途中では阪神淡路大震災及び東日本大震災で、陣頭指揮を執った岩手大学地域防災研究センター元教授越野会員の体験談があった。同会員は第13師団司令部第3部長を務め、平成18年に自衛隊定年後は、岩手県防災危機管理監として入庁



し、東日本震災では、先ず災害派遣部隊となった第9師団司令部を県庁内に設けて「できるだけ早く、一人でも多くを助ける」人命救助に対処した。折しも6月に予定する隊友会支部総会で演題「二つの大震災から学ぶ」の防衛講話が予定されており、参加者の関心も高く大変盛り上がった話題となった。

宴は終了予定の午後1時になっても収まらず、延長することとなったものの、日本一と言われる弘前公園での部隊OBの花見を控えている北畠、櫻庭、中村会員が居り、和やかな中で片付けに入った。

今年の会員参加者は、青森市から1名のみで、津軽地方の9名、計10名となり、

岡山県偕行会 令和8年度定期総会

2時間半に及んだ花見は、秋の総会での再会を期して児童公園を後にした。

なお、弘前駐屯地創立58周年記念日は、一週間遅れて26日の日曜日に予定され、多くの市民が訪れ、観閲行進や模擬演習を楽しみ、津軽地方の銘酒に囲まれた記念会食が待っている。本記事を書いていた20日夕方、青森県でも震度5、津波警報、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された。

1 定期総会

参加者は、元自衛官7名で、午前10時、開会の辞に続き国旗に敬礼・国歌斉唱、続いて陸自75期角南会長が開会の挨拶を行い、議事に入った。

議案は、令和7年度事業実績報告、同収支決算報告、監査結果報告が承認された後、令和8年度事業計画並びに予算計画について審議し、滞りなく承認された。

特に、令和7年度事業実績報告では、事業推進施策として「忠魂碑等の現況調査の継続」を図り、「吉備の国巡礼ウォーク」に参加し、8か所の忠魂碑の現況を

把握した。

また、昨年度から実施をしている「近現代史・思想の調査及び研究」の第3回の催しとして、令和7年12月浅口市金光町において、昭和5年11月広島県福山市から岡山市一帯において実施された陸軍特別大演習を实地に研修し、昭和天皇陛下が現在の浅口市金光町において本演習を統監された史実を本陸軍特別演習・史跡等を長年調査研究している前川会員の企画により八重山地区において研修し理解を深めた。

令和8年度事業計画では、方針として「世代交代による内部態勢の充実を図りつつ、偕行社設立の根本精神「英霊に敬意を」「日本に誇りを」を継承し、戦没者の慰霊顕彰及び陸上自衛隊への支援を主体に事業を推進」し、また「近現代史・思想の調査及び研究を実施する」事を重点に事業を推進していくことにして全員の賛同を得た。

2 講演会並びに情報交換会

その後、場所を移して、昨年度同様に岡山県隊友会との共催行事として、11時30分から約1時間、陸上自衛隊第13旅団長 橋爪陸将補による「我が国を取り巻く情勢と日本の安全保障」と題した防衛講話を拝聴した。

橋爪良友陸将補は、歴史的に変遷を重ねてきた軍事ドクトリン、ヨーロッパ、

アメリカ、ロシア、日本などの安全保障に関する基本的な考え方の変化、また自衛隊の防衛に関する国際情勢に伴う進化に関する話をわかりやすく聞くことが出来て大変有意義であった。

続いて、13時15分から情報交換会を実施したが、岡山県隊友会と共催のため旧知のOBとも再会して現況を交換し合うなど、相互理解を深めた。

約2時間の楽しい時間はあっという間に過ぎて、名残惜しかったが来年の再会を約して散会となった。

(広報担当理事 陸自81期 網島俊昭)

